

イランのシャー

松浦 純子

ネットである事を検索している時に別の事に目が留まり、ついそれを調べてしまうことがある。先日、「世界で最も高額なパーティー」というタイトルの動画が目に残り、一時間以上にわたるドキュメントに見入ってしまった。内容は一九七一年にイランのシャーであるパフレヴィー二世がペルセポリスで開いたイラン建国二五〇〇年の祭典である。

五時間半以上にわたって行われた豪華なバンケットの食事が高額だったのももちろんのこと、砂漠の中に会場を作ったことでさらに高額な費用がかかった。招待客用に作られたテント・シティ。中央に噴水を作り星形にテントを並べてその周りにフランスなどから運んできた樹木を植え、あたかも自然に生えているように演出。空港と現地の間は六〇〇名のお客さんを移動させるために二五〇台のベンツを用意。さらに砂漠の中にいる毒ヘビ、サソリの駆除等で計算できないくらいのお金を使ったといわれている。イランの威信を世界に見せるために、世界の最高級の会社や店に依頼してこの祭典を実施したが、「金に糸目をつけない」とはこのことだと思わされた。

一九七一年から二五〇〇年前は紀元前五二九年。アケメネス朝時代のこの年は特に大きな出来事はなかった。よくよく調べると、キュロス二世がアケメネス朝を開いた紀元前五五〇年を祝って開いた祭典だったとのこと。祭典のシンボルマークは建国者の功績を記した円筒だった。この国王は新バビロニア王国を滅ぼして、バビロンに強制移住させられていたユダヤ人を解放した人物でもある。

この祭典が開かれたペルセポリスはアケメネス朝最盛期の国王ダレイオス一世が建設を始め、宗教的行事を行う首都として機能していた。場所は砂漠の真ん中。この都市には同国王が建設した立派なペルセポリス神殿があった。しかし、アケメネス朝を滅ぼしたアレクサンドロス大王が火を放って破壊し、燃え盛る神殿を見て涙したという話も残っている。この神殿跡は長い間放置され、二〇〇〇年以上も砂の中に埋まっていた。

その神殿跡の隣で祭典が開かれた。参加者はイギリスや日本からは王族や皇族、西側のアメリカや西ドイツからは副大統領や首相、そして東側のソ連からは最高会議幹部会議長、ユーゴスラヴィアやルーマニアからは大統領が参加し、東西冷戦の最中にイデオロギーを超えて集まった。この集まりで何か実のある話がなされたのだろうか。残念ながらイラン国民はこの祭典を無駄遣いと考え、白色革命で不満が募っていた国内では、これ以後さらに混乱していく原因にもなった。

そして、皮肉なことに一九六四年にシャーがイランから追放していたホメイニたちによって、今度は一九七九年二月にシャーがホメイニたちによってイランを追われることになった。